

二地域での調査に基づく初年次学生の言葉遣いに関する考察

A Study of the Language Use of First-Year Higher Education Students Based on a Survey in Two Regions

杉 本 あ ゆ み

Ayumi Sugimoto

(要 約)

本研究は、東海地方と北陸地方の高等教育機関に属する初年次学生を対象に、敬語を含む言葉遣いに関するアンケート調査を実施し、学生の言葉遣いに関する実態を明らかにすると同時に、その結果には地域差が存在するのかを考察したものである。アンケート調査の質問項目は、敬語に関するものや、言葉遣いに関するものとし、1995（平成7）年より現在も実施されている、文化庁「国語に関する世論調査」（1）にある質問項目を参考にした。調査の結果、「ら抜き言葉」とされるものの中でも、「見れた」、「出れる」は積極的に使われている傾向にあることや、「アルバイト言葉」と言われている「お会計のほう、1万円になります」、「千円からお預かりします」、および「患者様は待合室でお待ちください」は容認傾向にあるということが示唆された。

(キーワード)

言語教育、日本語教育、敬語使用、言葉遣い、言葉遣いの地域差

1. はじめに

平成7年度より、文化庁は国語（日本語）施策の参考にするべく、全国16歳以上の個人を対象として、「現代の社会状況の変化に伴う、日本人の国語意識の現状」について、毎年世論調査を実施している。1995（平成7）年4月調査の目的は、「国語をめぐる現代の社会状況の変化に伴う日本人の国語意識の在り方について調査し、今後の施策の参考とする。」とされ、令和3年度（令和4年1月～2月調査）、令和4年度（令和5年1月～3月調査）の目的は、「現在の社会状況の変化に伴う日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する。」である。

言葉遣いは時代とともに変化を伴うもの故、日本語教育においてもその内容を変化させていかなければならないと考える。本研究では、これからのVUCA時代【Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧性）の頭文字を取った造語】を生き抜くために必要とされる能力の根本であると考えられる言語能力、とりわけ、日本語力を身につけるための日本語教育を考察することを目的とし、現状を把握すべく、東海地方と北陸地方の高等教育機関に属する初年次学生を対象に、上記の文化庁の調査内容を参考にして、敬語を含む言葉遣いに関するアンケート調査を実施することとした。

2. 本研究の目的、意義

本研究の目的は、本学科生における言葉遣いについての調査を実施し、現状を把握、分析し、本学の

日本語教育プログラムの設計に役立てることである。また、本研究の意義は、この調査結果より得られたデータが、高等教育機関での言語教育開発の一助となり得ることである。

3. 調査内容

文化庁の「国語に関する世論調査」を参考に、敬語を含む言葉遣いに関する質問事項を設定し、東海地方と北陸地方の高等教育機関に属する初年次学生を対象に、学生の言葉遣いに関する実態を明らかにすべく、敬語を含む言葉遣いに関するアンケート調査を実施した。調査時期は2024年3月～4月、対象学生は東海地方A大学初年次学生96名、北陸地方B大学初年次学生42名であり、質問項目は以下である。

1-1 敬語が必要だと思いますか。
上記の質問に、「必要だと思う」、「ある程度必要だと思う」、「余り必要だとは思わない」、「必要だとは思わない」、「わからない」より選択することとした。

1-2 あなたは敬語を使いこなせていると思いますか。
上記の質問に、「とても思う」、「思う」、「余り思わない」、「全く思わない」、「わからない」より選択することとした。

1-3 あなたは敬語をうまく使えるようになりたいですか。
上記の質問に、「とても思う」、「思う」、「余り思わない」、「全く思わない」、「わからない」より選択することとした。

1-4 次の言い方は気になりますか。
(1) 先生、こちらでお待ちしてください (2) お客様が申されました (3) とんでもございません
(4) お客様がお見えになった (5) 3時に御出発される予定です (6) 先生がおっしゃられたように
(7) お客様、どうぞいただきます (8) あしたは休ませていただきます
(9) お会計のほう、1万円になります (10) 千円未満の買い物をしたとき、店の会計で、店員が、千円からお預かりします
(11) 患者様は待合室でお待ちください (12) 絵画展は8階で開催してございます
上記、(1) から (12) に、「気になる」、「気にならない」、「どちらとも言えない」より選択することとした。

1-5 どちらの言い方を使いますか。
(1) ア：こんなにたくさんは食べられない イ：こんなにたくさんは食べれない
(2) ア：朝5時に来られますか イ：朝5時に来れますか
(3) ア：彼が来るなんて考えられない イ：彼が来るなんて考えれない
(4) ア：今年は初日の出が見られた イ：今年は初日の出が見れた
(5) ア：早く出られる？ イ：早く出れる？
(6) ア：明日は休ませていただきます イ：明日は休まさせていただきます
(7) ア：今日はこれで帰らせてください イ：今日はこれで帰らせてください
(8) ア：担当の者を伺わせます イ：担当の者を伺わさせます
(9) ア：絵を見せてください イ：絵を見させていただきます
(10) ア：私が読ませていただきます イ：私が読まさせていただきます
(11) ア：植木に水をやる イ：植木に水をあげる
(12) ア：うちの子におもちゃを買ってやりたい イ：うちの子におもちゃを買ってあげたい
(13) ア：相手チームにはもう1点もやれない イ：相手チームにはもう1点もあげられない
(14) ア：フタを開ける イ：フタを開ける
(15) ア：このフタを開けられる？ イ：このフタを開ける？
(16) ア：早く行ける？ イ：早く行ける？
(17) ア：漢字が書ける イ：漢字が書ける
上記、(1) から (17) に、「アを使う」、「イを使う」、「どちらも使う」、「わからない」より選択することとした。

4. 調査結果

本調査の結果は、以下のとおりである（東海地方 N=96、北陸地方 N=42）。

1. 1 敬語が必要だと思いますか。

	とても思う	思う	余り思わない	全く思わない	わからない	無回答
東海地方	76名 (79.2%)	17名 (17.7%)	3名 (3.1%)	— (—)	— (—)	— (—)
北陸地方	28名 (66.7%)	13名 (31.0%)	— (—)	— (—)	— (—)	1名 (2.4%)

敬語の必要性について尋ねたところ、「とても必要だと思う」もしくは、「必要だと思う」が、北陸地方では100%、東海地方では96.9%と、ほとんど全員の学生が敬語は必要だと思っていることが明らかとなった。

1. 2 あなたは敬語を使いこなせていると思いますか。

	とても思う	思う	余り思わない	全く思わない	わからない	無回答
東海地方	2名 (2.1%)	30名 (31.3%)	49名 (51.0%)	6名 (6.3%)	9名 (9.4%)	— (—)
北陸地方	2名 (4.8%)	16名 (38.1%)	20名 (47.6%)	3名 (7.1%)	— (—)	1名 (2.4%)

自身の敬語力について尋ねたところ、敬語を使いこなせていると、「とても思う」と回答した学生は、1割にも届かず、非常に少数であったものの、「思う」は、東海地方、北陸地方ともに、3割を超えていた。「余り思わない」が東海地方5割以上、北陸地方5割弱で最も多い回答であった。この結果を受けて、学生の敬語に関する自己評価は高いとは言えず、学生の敬語力を数値等で測ることができる学修ツールの開発が必要であると考えられる。

1. 3 あなたは敬語をうまく使えるようになりたいですか。

	とても思う	思う	余り思わない	全く思わない	わからない	無回答
東海地方	51名 (53.1%)	39名 (40.6%)	5名 (5.2%)	1名 (1.0%)	— (—)	— (—)
北陸地方	25名 (59.5%)	15名 (35.7%)	1名 (2.4%)	— (—)	— (—)	1名 (2.4%)

将来的に敬語を身につけたいと思っているかどうかを尋ねたところ、東海地方、北陸地方ともに9割以上の学生が肯定的で、「とても思う」もしくは、「思う」と回答していた。この結果からは、自ら敬語能力が身についたことを学生が測定でき、自身の成長を実感できるような敬語教育プログラムの設計、それに伴う学修ツールの開発の必要性を認めることができる。1-1から1-4までの結果を踏まえ提案できる具体的な学修方法、学修コンテンツとして、東海地方の半数以上の受講学生が、アルバイト先で接客に関する敬語を学んでいるという実態より、①お客様と店員等の役割分担で行う、販売等の場面を想定したロールプレイングの実践、また、学生自身が自らの敬語力を測定できる学修ツールとして、②敬語力測定に限定したループリックの作成、提示等が挙げられる。

1. 4 次の言い方は気になりますか。

(1) 先生、こちらでお待ちしてください

	気になる	気にならない	どちらとも言えない	無回答
東海地方	73名 (76.0%)	17名 (17.7%)	4名 (4.2%)	2名 (2.1%)
北陸地方	32名 (76.2%)	5名 (11.9%)	3名 (7.1%)	2名 (4.8%)

「先生、こちらでお待ちしてください」は、自分自身や身内の動作や行動に用いる謙譲語を、尊敬語として相手に用いている点で問題のある言い方である。「先生、こちらでお待ちになってください」などが本来の言い方である。東海地方、北陸地方ともに、8割弱の学生が、この言い方に違和感を覚えた結果となった。

(2) お客様が申されました

	気になる	気にならない	どちらとも言えない	無回答
東海地方	68名 (70.8%)	22名 (22.9%)	4名 (4.2%)	4名 (4.2%)
北陸地方	31名 (73.8%)	6名 (14.3%)	3名 (7.1%)	2名 (4.8%)

「お客様が申されました」は、謙譲語「申す」に、尊敬の助動詞「れる」を付けたもので、尊敬語として相手に用いるのはふさわしくない言い方とされる。「お客様がおっしゃいました」などが本来の言い方となる。東海地方、北陸地方ともに、7割程度が「気になる」、約1割から2割の学生が「気になら

ない」と回答しており、「お客様が申されました」は相応しくない言い方だと認める傾向にあることが示唆された。

(3) とんでもございません

	気になる	気にならない	どちらとも言えない	無回答
東海地方	28名 (29.2%)	55名 (57.3%)	11名 (11.5%)	2名 (2.1%)
北陸地方	13名 (31.0%)	24名 (57.1%)	3名 (7.1%)	2名 (4.8%)

「とんでもございません」は、「敬語の指針」(平成19年文化審議会答申)(2)によれば、「相手からの褒めや賞賛などを軽く打ち消すときの表現」として使うことは問題がないとされている言い方である。東海地方、北陸地方ともに、「気にならない」が半数以上を占めている。東海地方、北陸地方ともに、「気になる」が3割程度いるものの、「とんでもございません」は定着しつつある表現である可能性が示唆された。

(4) お客様がお見えになった

	気になる	気にならない	どちらとも言えない	無回答
東海地方	23名 (24.0%)	66名 (68.8%)	5名 (5.2%)	2名 (2.1%)
北陸地方	5名 (11.9%)	35名 (83.3%)	— (—)	2名 (4.8%)

「お客様がお見えになった」は、「見える」に「お・・・になる」を加えたもので、尊敬表現を重ねた二重敬語であるものの、「敬語の指針」では、「習慣として定着している」とされる言い方である。東海地方では7割程度、北陸地方では8割以上の学生が「気にならない」と回答しており、容認している傾向にあることがわかった。

(5) 3時に御出発される予定です

	気になる	気にならない	どちらとも言えない	無回答
東海地方	47名 (49.0%)	33名 (34.4%)	13名 (13.5%)	3名 (3.1%)
北陸地方	18名 (42.9%)	17名 (40.5%)	5名 (11.9%)	2名 (4.8%)

「3時に御出発される予定です」は、謙譲語の形「御・・・する」に、尊敬の助動詞「れる」を付けたもので、尊敬語として相手に用いるのはふさわしくない言い方とされる。本来の言い方は「3時に御出発になる予定です」などである。「気になる」が、東海地方で半数程度、北陸地方では4割程度、「気にならない」が、東海地方で3割程度、北陸地方では4割程度と、「気になる」と「気にならない」の差は、それほど大きいものではないことがわかった。また、「どちらとも言えない」が東海地方、北陸地方ともに1割程度という結果も特徴的である。

(6) 先生がおっしゃられたように

	気になる	気にならない	どちらとも言えない	無回答
東海地方	24名 (25.0%)	64名 (66.7%)	5名 (5.2%)	3名 (3.1%)
北陸地方	8名 (19.0%)	32名 (76.2%)	— (—)	2名 (4.8%)

「先生がおっしゃられたように」は、尊敬語「おっしゃる」に尊敬の助動詞「れる」を加えたもので、尊敬表現を重ねた二重敬語となり、過剰敬語として扱われ一般的に適切ではない言い方とされる。「先生がおっしゃったように」などが本来の言い方である。東海地方、北陸地方ともに「気になる」よりも「気にならない」が多数派となり、二重敬語を容認する状況に近づいていると捉えられることが示唆さ

れた。

(7) お客様、どうぞいただいでください

	気になる	気にならない	どちらとも言えない	無回答
東海地方	69名 (71.9%)	20名 (20.8%)	6名 (6.3%)	1名 (1.0%)
北陸地方	35名 (83.3%)	5名 (11.9%)	— (—)	2名 (4.8%)

「お客様、どうぞいただいでください」は、自分自身や身内の動作や行動に用いる謙譲語を、尊敬語として相手に用いている点で問題のある言い方とされる。「お客様、どうぞ召し上がってください」などが本来の言い方である。東海地方、北陸地方ともに、「気になる」が「気にならない」よりも圧倒的に多かった。

(8) あしたは休まさせていただきます

	気になる	気にならない	どちらとも言えない	無回答
東海地方	33名 (34.4%)	53名 (55.2%)	8名 (8.3%)	2名 (2.1%)
北陸地方	15名 (35.7%)	20名 (47.6%)	— (—)	2名 (4.8%)

「明日は 休まさせていただきます」は、「休まさせて」の「さ」が余計とされており、「さ入れ言葉」などと呼ばれている。令和5年現在では、まだ、ふさわしくない言い方とされ、「明日は休まさせていただきます」などが本来の言い方である。東海地方、北陸地方ともに、「気になる」が3割強、「気にならない」が東海地方で5割超、北陸地方で5割弱と、「気になる」よりも「気にならない」の方が多数派であった。この結果より東海地方、北陸地方ともに、「さ入れ言葉」の容認傾向を認めることができる。

(9) お会計のほう、1万円になります

	気になる	気にならない	どちらとも言えない	無回答
東海地方	29名 (30.2%)	56名 (58.3%)	9名 (9.4%)	2名 (2.1%)
北陸地方	9名 (21.4%)	25名 (59.5%)	6名 (14.3%)	2名 (4.8%)

「お会計のほう、1万円になります」は、「アルバイト言葉」とも言われており、「～のほう」という表現が問題にされることがある言い方である。「気になる」が、東海地方で3割程度、北陸地方で2割程度、「気にならない」は、東海地方、北陸地方ともに6割弱であった。東海地方、北陸地方ともに「気になる」よりも「気にならない」の値が大幅に高く、この言い方が容認されていることが示唆された。

(10) 千円からお預かりします

	気になる	気にならない	どちらとも言えない	無回答
東海地方	37名 (38.5%)	48名 (50.0%)	8名 (8.3%)	3名 (3.1%)
北陸地方	12名 (28.6%)	24名 (57.1%)	4名 (9.5%)	2名 (4.8%)

「千円からお預かりします」も、1-5 (9) と同様に「アルバイト言葉」と言われており、「～から」という表現が問題にされることがある言い方である。「気になる」が、東海地方で4割弱、北陸地方で3割弱、「気にならない」は、東海地方、北陸地方ともに5割程度であった。東海地方、北陸地方ともに「気になる」よりも「気にならない」の値が高く、1-5 (9) と同様に、この言い方が容認されていることが示唆された。

(11) 患者様は待合室でお待ちください

	気になる	気にならない	どちらとも言えない	無回答
東海地方	12名 (12.5%)	69名 (71.9%)	11名 (11.5%)	4名 (4.2%)
北陸地方	6名 (14.3%)	33名 (78.6%)	1名 (2.4%)	2名 (4.8%)

「患者様は待合室でお待ちください」は、「～様」という表現が問題にされることがある言い方である。「気になる」が、東海地方、北陸地方ともに1割程度、「気にならない」は、東海地方、北陸地方ともに7割を超えていた。東海地方、北陸地方ともに「気になる」よりも「気にならない」の値が非常に高く、1-5 (9) や 1-5 (10) と比較しても、この言い方は、すでに大多数の学生に認知されている傾向にあることが示唆された。

(12) 絵画展は8階で開催してございます

	気になる	気にならない	どちらとも言えない	無回答
東海地方	80名 (83.3%)	9名 (9.4%)	4名 (4.2%)	3名 (3.1%)
北陸地方	36名 (85.7%)	3名 (7.1%)	1名 (2.4%)	2名 (4.8%)

「絵画展は8階で開催してございます」は、「してございます」という表現に問題があるとされ、「絵画展は8階で開催しております」などが本来の言い方である。東海地方、北陸地方ともに8割以上の学生が「気になる」としており、地域を問わず、ほとんどの学生が違和感を覚える表現であることが示唆された。

1. 5 どちらの言い方を使いますか。

(1) ア：こんなにたくさんは食べられない イ：こんなにたくさんは食べれない

	アを使う	イを使う	どちらも使う	わからない	無回答
東海地方	31名 (32.3%)	41名 (42.7%)	21名 (21.9%)	－ (－)	3名 (3.1%)
北陸地方	18名 (42.9%)	15名 (35.7%)	7名 (16.7%)	－ (－)	2名 (4.8%)

「ら抜き言葉」とは、可能の意味を表す助動詞「られる」の「ら」を省略して使う表現のことで、上一段活用動詞、下一段活用動詞、力行変格活用動詞に、本来「られる」を使うべきところに、「れる」を使う場合にそれとなる。「食べる」は下一段活用動詞であり、本来であれば「食べられない」と言うべきであるが、10代から30代の若い世代を中心に、徐々に「ら抜き言葉」が広まりつつあるとされている。東海地方では「イを使う」が「アを使う」より多く、「ら抜き言葉」の容認傾向がうかがえるが、北陸地方では「アを使う」が「イを使う」より多く、「ら抜き言葉」の東海地方ほどの容認傾向が認められなかった。若年層の「ら抜き言葉」の使用には、多少なりとも地域差があることが示唆された。

(2) ア：朝5時に来られますか イ：朝5時に来れますか

	アを使う	イを使う	どちらも使う	わからない	無回答
東海地方	22名 (22.9%)	51名 (53.1%)	16名 (16.7%)	2名 (2.1%)	5名 (5.2%)
北陸地方	21名 (50.0%)	13名 (31.0%)	6名 (14.3%)	－ (－)	2名 (4.8%)

「来る」は力行変格活用動詞であるので、本来は「来られる」と言うべきである。東海地方では「イを使う」が「アを使う」より多く、「ら抜き言葉」の容認傾向が多数派であったが、北陸地方では「アを使う」が「イを使う」より多く、1-6 (1) と同様に、北陸地方では「ら抜き言葉」の容認傾向が、東海地方よりも低かった。こちらも、1-6 (1) と同様に、若年層の「ら抜き言葉」の使用には、多少

なりとも地域差があることが示唆された。

(3) ア：彼が来るなんて考えられない イ：彼が来るなんて考えれない

	アを使う	イを使う	どちらも使う	わからない	無回答
東海地方	60名 (62.5%)	12名 (12.5%)	18名 (18.8%)	2名 (2.1%)	4名 (4.2%)
北陸地方	29名 (69.0%)	6名 (14.3%)	5名 (11.9%)	— (—)	2名 (4.8%)

「考えれない」は下一段活用動詞「考える」の未然形である「考え」に、可能の意味を表す助動詞「れる」がついた形で「ら抜き言葉」であり、本来は「考えられる」と言うべきである。東海地方、北陸地方ともに、「アを使う」が「イを使う」よりも大幅に多く、この「ら抜き言葉」については、両地方ともに容認されていないことがわかった。ただし、東海地方においては、「どちらも使う」が「イを使う」よりも多く、「考えられない」と「考えれない」を両方使う学生が2割弱いるという興味深い結果であった。

(4) ア：今年は初日の出が見られた イ：今年は初日の出が見れた

	アを使う	イを使う	どちらも使う	わからない	無回答
東海地方	9名 (9.4%)	64名 (66.7%)	19名 (19.8%)	— (—)	4名 (4.2%)
北陸地方	10名 (23.8%)	25名 (59.5%)	5名 (11.9%)	— (—)	2名 (4.8%)

「見る」は上一段活用動詞であるので、「見る」の未然形である「見」に、可能の意味を表す助動詞「られる」がついて「見られる」と言うべきであるとされている。「見れた」は、下一段活用動詞「見れる」の連用形である「見れ」に、過去・完了・存続・確認の意味を表す助動詞「た」がついた形である。東海地方、北陸地方ともに、「イを使う」が「アを使う」よりも多く、「ら抜き言葉」である「見れた」を容認する傾向にあった。ただし、東海地方、北陸地方ともに、「どちらも使う」が一定数いることに注目したい。

(5) ア：早く出られる？ イ：早く出れる？

	アを使う	イを使う	どちらも使う	わからない	無回答
東海地方	16名 (16.7%)	53名 (55.2%)	24名 (25.0%)	— (—)	3名 (3.1%)
北陸地方	14名 (33.3%)	21名 (50.0%)	5名 (11.9%)	— (—)	2名 (4.8%)

「出れる」は下一段活用動詞「出る」を可能動詞化したものである。本来は、「出る」の未然形「出」＋可能の意味を表す助動詞「られる」をつけた形「出られる」と言うべきであるとされている。東海地方、北陸地方ともに、「イを使う」が「アを使う」よりも多く、「見れた」と同様に、「ら抜き言葉」である「出れる？」を容認する傾向にあった。ただし、こちらにおいても、東海地方、北陸地方ともに、「どちらも使う」が一定数いることに注目したい。特に、東海地方の「どちらも使う」は「アを使う」よりも多かった。

(6) ア：明日は休ませていただきます イ：明日は休まさせていただきます

	アを使う	イを使う	どちらも使う	わからない	無回答
東海地方	50名 (52.1%)	29名 (30.2%)	11名 (11.5%)	3名 (3.1%)	3名 (3.1%)
北陸地方	30名 (71.4%)	6名 (14.3%)	4名 (9.5%)	— (—)	2名 (4.8%)

「～させていただきます」の「させ」は使役の意味を表す助動詞「させる」の未然形である。使役の意味を表す助動詞には「させる」と「せる」があり、上一段活用動詞、下一段活用動詞、カ行変格活用

動詞の後に「させる」がつき、五段活用動詞とサ行変格活用動詞の後には「せる」がつくのが一般的である。したがって、「休む」という五段活用動詞には「せる」をつけるのが正しいとされ、余分な「さ」を加えた「休まさせる」は「さ入れ言葉」と呼ばれ、現時点では誤用とされ、新聞などには用いられていない表現である。東海地方、北陸地方ともに、「アを使う」が「イを使う」より多く、「さ入れ言葉」の容認は少数派であったが、東海地方では、「アを使う」5割程度、「イを使う」3割程度、「どちらも使う」1割程度と、北陸地方に比べてその差があまりなかった。

(7) ア：今日はこれで帰らせてください イ：今日はこれで帰らせてください

	アを使う	イを使う	どちらも使う	わからない	無回答
東海地方	59名 (61.5%)	20名 (20.8%)	10名 (10.4%)	4名 (4.2%)	3名 (3.1%)
北陸地方	30名 (71.4%)	7名 (16.7%)	3名 (7.1%)	— (—)	2名 (4.8%)

「帰る」という五段活用動詞には「せる」をつけるのが正しいとされ、余分な「さ」を加えた「帰らさせる」は「さ入れ言葉」と呼ばれ、現時点では誤用とされて、新聞などには用いられていない表現である。東海地方、北陸地方ともに、「アを使う」が「イを使う」よりも多数派で、「さ入れ言葉」である「帰らせてください」使用は少数派傾向にあることがわかった。

(8) ア：担当の者を伺わせませす イ：担当の者を伺わせませす

	アを使う	イを使う	どちらも使う	わからない	無回答
東海地方	55名 (57.3%)	16名 (16.7%)	7名 (7.3%)	15名 (%)	3名 (3.1%)
北陸地方	29名 (69.0%)	8名 (19.0%)	3名 (7.1%)	— (—)	2名 (4.8%)

「伺う」という五段活用動詞には「せる」をつけるのが正しいとされ、余分な「さ」を加えた「伺わさせる」は「さ入れ言葉」と呼ばれ、現時点では誤用とされ、新聞などには用いられていない表現である。東海地方、北陸地方ともに、「アを使う」が「イを使う」よりも多数派で、「帰らせてください」と同様に、「さ入れ言葉」である「伺わせませす」使用は少数派傾向にあることがわかった。

(9) ア：絵を見せてください イ：絵を見させてください

	アを使う	イを使う	どちらも使う	わからない	無回答
東海地方	51名 (53.1%)	21名 (21.9%)	19名 (19.8%)	1名 (1.0%)	4名 (4.2%)
北陸地方	30名 (71.4%)	4名 (9.5%)	6名 (14.3%)	— (—)	2名 (4.8%)

「見せてください」は、下一段活用の動詞「見せる」の連用形「見せ」に接続助詞「て」＋「ください」の形、「見させてください」は、上一段活用動詞「見る」の未然形「見」に、使役の意味を表す助動詞「させる」＋「て」＋「ください」の形であり、両方とも文法的には問題のない表現である。東海地方、北陸地方ともに、「アを使う」が「イを使う」よりも多数派で、「帰らせてください」や「伺わせませす」と同様に、「さ入れ言葉」である「見させてください」使用も少数派傾向にあることがわかった。

(10) ア：私が読ませさせていただきます イ：私が読まさせていただきます

	アを使う	イを使う	どちらも使う	わからない	無回答
東海地方	45名 (46.9%)	31名 (32.3%)	13名 (13.5%)	4名 (4.2%)	3名 (3.1%)
北陸地方	32名 (76.2%)	5名 (11.9%)	3名 (7.1%)	— (—)	2名 (4.8%)

「読む」という五段活用動詞には「せる」をつけるのが正しいとされ、余分な「さ」を加えた「読ま

させる」は「さ入れ言葉」と呼ばれ、現時点では誤用とされ、新聞などには用いられていない表現である。東海地方、北陸地方ともに、「アを使う」が「イを使う」よりも多数派で、「帰らせてください」や「伺わさせます」、「見させてください」と同様に、「さ入れ言葉」である「読まさせていただきます」使用も少数派傾向にあった。ただし、東海地方では「アを使う」が「イを使う」よりも多いが、それほど差がなかった。

(11) ア：植木に水をやる イ：植木に水をあげる

	アを使う	イを使う	どちらも使う	わからない	無回答
東海地方	31名 (32.3%)	24名 (25.0%)	37名 (38.5%)	1名 (1.0%)	3名 (3.1%)
北陸地方	16名 (38.1%)	14名 (33.3%)	10名 (23.8%)	— (—)	2名 (4.8%)

「やる」、「あげる」の使い分けに関する質問であるが、「敬語の指針」には、『「植木に水をあげる」という場合の「あげる」は、旧来の規範からすれば誤用とされるものであるが、この語の謙譲語から美化語に向かう意味的な変化は既に進行し、定着しつつあると言ってよい。』とある。東海地方、北陸地方ともに、「アを使う」が「イを使う」よりも多いが、それほど差がなかった。

(12) ア：うちの子におもちゃを買ってやりたい イ：うちの子におもちゃを買ってあげたい

	アを使う	イを使う	どちらも使う	わからない	無回答
東海地方	10名 (10.4%)	58名 (60.4%)	24名 (25.0%)	1名 (1.0%)	3名 (3.1%)
北陸地方	5名 (11.9%)	27名 (64.3%)	8名 (19.0%)	— (—)	2名 (4.8%)

東海地方、北陸地方ともに、「イを使う」が「アを使う」よりも多く、「買ってあげたい」が多数派であった。同様の質問内容で実施した令和2年度「国語に関する世論調査」は、「どちらも使う」という選択肢が無い調査で、本調査方法と異なるため単純比較はできないが、「買ってやりたい」34.5%、「買ってあげたい」64.2%というものであった。

(13) ア：相手チームにはもう1点もやれない イ：相手チームにはもう1点もあげられない

	アを使う	イを使う	どちらも使う	わからない	無回答
東海地方	27名 (28.1%)	41名 (42.7%)	22名 (22.9%)	3名 (3.1%)	3名 (3.1%)
北陸地方	15名 (35.7%)	19名 (45.2%)	6名 (14.3%)	— (—)	2名 (4.8%)

東海地方、北陸地方ともに、それほど大差はないが、「イを使う」が「アを使う」よりも多く、「1点もあげられない」が多数派であった。同様の質問内容で実施した令和2年度「国語に関する世論調査」の結果は、調査方法が本学のものとは異なるため単純比較はできないが、「1点もやれない」76.6%、「1点もあげられない」22.2%というものであった（「どちらも使う」という選択肢が無い調査であった）。

(14) ア：フタを開ける イ：フタを開けれる

	アを使う	イを使う	どちらも使う	わからない	無回答
東海地方	65名 (67.7%)	4名 (4.2%)	23名 (24.0%)	1名 (1.0%)	3名 (3.1%)
北陸地方	31名 (73.8%)	2名 (4.8%)	7名 (16.7%)	— (—)	2名 (4.8%)

「開ける」は下一段活用の動詞であり、「開けれる」は「開ける」の未然形「開け」に可能の意味を表す助動詞「れる」がついた形で、「ら抜き言葉」とされる。東海地方、北陸地方ともに、「アを使う」が「イを使う」よりも多く、「開ける」が多数派であった。また、「イを使う」よりも「どちらも使う」の方が多い結果となった。

(15) ア：このフタを開けられる？ イ：このフタを開けれる？

	アを使う	イを使う	どちらも使う	わからない	無回答
東海地方	25 名 (26.0%)	43 名 (44.8%)	25 名 (26.0%)	— (—)	3 名 (3.1%)
北陸地方	14 名 (33.3%)	20 名 (47.6%)	6 名 (14.3%)	— (—)	2 名 (4.8%)

1-6 (14) の疑問形である。「開けられる」は、下一段活用の動詞「開ける」の未然形「開け」に、受け身、尊敬、自発、可能の意味を表す助動詞「られる」がついた形である。「開けれる」は「開ける」の未然形「開け」に可能の意味を表す助動詞「れる」がついた形で、「ら抜き言葉」とされる。東海地方、北陸地方ともに、それほど大差はないが、「イを使う」が「アを使う」よりも多く、「ら抜き言葉」とされる「開けれる？」が多数派であった。上記 1-6 (14) の結果と比較し、動詞「開ける」においては、疑問形の方が「ら抜き言葉」を使いやすいということが示唆された。

(16) ア：早く行ける？ イ：早く行けれる？

	アを使う	イを使う	どちらも使う	わからない	無回答
東海地方	85 名 (88.5%)	2 名 (2.1%)	6 名 (6.3%)	— (—)	— (—)
北陸地方	34 名 (81.0%)	4 名 (9.5%)	2 名 (4.8%)	— (—)	2 名 (4.8%)

「行ける」は、可能動詞であり、五段活用動詞「行く」を、下一段活用動詞「行ける」に変化させたもので、「可能～することができる」の意を表す。「行けれる」は、可能動詞「行ける」の未然形である「行け」に、可能の意味を表す助動詞「れる」がついた形であり、「れ足す言葉」、「れ足す表現」などとも呼ばれている。本来は「行ける？」を使うべきである。東海地方、北陸地方ともに、「アを使う」が「イを使う」よりも圧倒的に多く、「行ける？」が多数派であった。1-6 (15) の結果とは異なり、可能動詞「行ける」においては、疑問形でも「れ足す言葉」を使いやすいということはないことが示唆された。

(17) ア：漢字が書ける イ：漢字が書けれる

	アを使う	イを使う	どちらも使う	わからない	無回答
東海地方	86 名 (89.6%)	3 名 (3.1%)	4 名 (4.2%)	— (—)	3 名 (3.1%)
北陸地方	38 名 (90.5%)	1 名 (2.4%)	1 名 (2.4%)	— (—)	2 名 (4.8%)

「書ける」も、「行ける」と同様に可能動詞であり、五段活用動詞「書く」を、下一段活用動詞「書ける」に変化させたもので、「可能～することができる」の意を表す。「書けれる」は可能動詞「書ける」の未然形である「書け」に、可能の意味を表す助動詞「れる」がついた形であり、「れ足す言葉」、「れ足す表現」となる。本来は「書ける？」を使うべきである。東海地方、北陸地方ともに、「アを使う」が「イを使う」よりも圧倒的に多く、「書ける」が 9 割前後と多数派であった。

5. 結果考察

本調査結果により、明らかになったことは以下である。

①東海地方、北陸地方ともに、9 割以上が「敬語が必要だ」、「敬語を上手く使えるようになりたい」と思っている

東海地方では、「とても思う」、「思う」計 96.9%、北陸地方では、「とても思う」、「思う」計 100.0%と、

ほぼ全員が敬語の必要性を感じており、「敬語を上手く使えるようになりたい」についても、東海地方は、「とても思う」、「思う」計 94.8%、北陸地方では、「とても思う」、「思う」計 97.6%と、9 割以上が敬語使用に関して向上心を持っていることが分かった。

②東海地方、北陸地方ともに、半数以上が自身の敬語力に自信が持てないでいる

自身の敬語力に関する質問である、「あなたは敬語を使いこなせていると思いますか」に関して、東海地方では、「余り思わない」、「全く思わない」計 57.3%、北陸地方では、「余り思わない」、「全く思わない」計 54.7%と、敬語を使いこなせていないと思っている初年次学生が、東海地方、北陸地方ともに半数以上いることが分かった。①、②の結果により、敬語使用に自信の持てない受講学生の敬語を上手く使えるようになりたいという向上心を満足させることが可能となる敬語教育ツールの開発が求められる。

③「お客様がお見えになった」、「先生がおっしゃられたように」にあるような、二重敬語の容認性の高まり

「お客様がお見えになった」は、東海地方で 7 割弱、北陸地方で 8 割以上が「気にならない」と回答し、「先生がおっしゃられたように」は、東海地方で 7 割弱、北陸地方で 8 割弱が「気にならない」と回答し、一般的には適切でないと言われる二重敬語が容認傾向にあることが示唆された。

④「お会計のほう、1 万円になります」「千円からお預かりします」などのアルバイト言葉、および、「患者様は待合室でお待ちください」の容認性の高まり

「お会計のほう、1 万円になります」や、「千円からお預かりします」は、「アルバイト言葉」とも呼ばれており、現時点では表現に問題があるとされる言い方である。「お会計のほう、1 万円になります」については、東海地方、北陸地方ともに、6 割弱が「気にならない」と回答し、他方、「千円からお預かりします」についても、東海地方、北陸地方ともに、5-6 割弱が「気にならない」と回答しており、その容認性がうかがえる。また、「患者様は待合室でお待ちください」に関しては、東海地方で 7 割以上、北陸地方で 8 割弱が「気にならない」と回答しており、「お会計のほう、1 万円になります」「千円からお預かりします」と同様に、その容認性がうかがえる。

⑤「今年は初日の出が見れた」、「早く出れる？」にある、「ら抜き言葉」の使用の高まり

「ら抜き言葉」の中でも、特に「今年は初日の出が見れた」と、「早く出れる？」が使用される傾向にあった。「見れた」は東海地方で 7 割弱、北陸地方で 6 割弱が使うとされ、「出れる？」は東海地方で 6 割弱、北陸地方で 5 割が使うとされていた。

⑥「ら抜き言葉」の中でも「朝 5 時に来れますか」の使用に地域性が認められる

「朝 5 時に来られますか」、「朝 5 時に来れますか」どちらを使用するかについて、東海地方では「朝 5 時に来れますか」が 5 割以上、「朝 5 時に来られますか」が 2 割以上に対し、北陸地方では「朝 5 時に来れますか」が 3 割以上、「朝 5 時に来られますか」が 5 割と、ほぼ正反対の結果であった。これにより東海地方で「ら抜き言葉」の使用率が高く、地域性が示唆された。

⑦東海地方、北陸地方ともに、「さ入れ言葉」の使用は少数派である傾向が認められる

「明日は休まさせていただきます」、「今日はこれで帰らせてください」、「担当の者を伺わせます」、

「絵を見させてください」、「私が読まさせていただきます」について、東海地方、北陸地方ともに、「さ入れ言葉」の使用は少数派であり、現状では広く容認されているとは言えない状況である。

6. おわりに

以上、東海地方と北陸地方の高等教育機関に属する初年次学生を対象に、敬語を含む言葉遣いに関するアンケート調査を実施し、結果を考察した。調査の結果、9割以上が敬語を必要なものだと考えていて、今後、敬語を身につけたいと思っていること、また、およそ半数の受講学生は「敬語を使いこなせていない」と考え、自分自身の敬語力に自信を持っていないということがわかった。この結果により、今後、実際に敬語を使用することにより敬語力を身につける、場面ごとのロールプレイング等の実践的な敬語教育が有効であろうと考えられる。今回の調査で明らかになったことは、高等教育機関における、場面ごとの敬語使用ロールプレイングを中心とした日本語教育プログラムの設計、敬語使用ロールプレイングツールの構築等に、積極的に役立てていく所存である。また、調査結果は所属が限定された初年次学生によるものであり、一般性を示すことはできない。今後もこのような調査を継続的に実施し、社会的使用傾向の変化を踏まえた上で、現代の日本語学説と比較しながら追究していきたいと考える。

引用・参考文献

- (1) 文化庁 “国語に関する世論調査”

(http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/). 2024. 7. 2 取得

- (2) 文化審議会答申 “敬語の指針”

(https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/sokai/sokai_6/pdf/keigo_tousin.pdf). 2024. 7. 2 取得